

教科:国語 単元名:書評を書いて話し合おう

手にとったらついつい読みたくなる、
「ひみつブック」を作ろう!

学年:6年

10のキーワード

- ・志をともにし、作業を別にする
- ・リソースとリミッター
- ・センスとタイミング

問いストーリー (単元の概要・児童への願い)

<児童への願い>本単元を通じて、「おススメしたい本を手にとってもらえるように、本の情報や自分の考えを、文体を工夫して書くことが出来る (B 書くこと U 子ども)」になって欲しいという願いがある。そこで、本全体を覆い、書評のみを表に貼った「ひみつブック」を作る、という学習活動を設定した。「おススメの本を手にとってもらうためには、その本の情報や魅力が伝わるような書評を書かなければならない」といった学習の必然性を生み、「ひみつ」という構造で子どもの興味を喚起するねらいがある。「手に取った人が読んでもらえるようなひみつブックを作るにはどうする?」という問いを持ちながら学習している内に、書く力が身に付くような探究的な授業を展開したい。

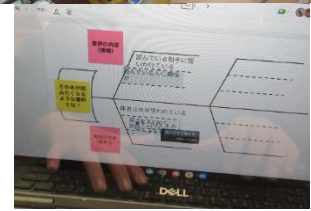
<問いストーリー> 「手に取った人が読みたくなるようなひみつブックは、どのように作るか?」

①「桃太郎を読みたくなるような、桃太郎をおススメする書評を読んでみよう!」→ ②「この書評は面白い!何でだろう?」「おススメする文章はどういったものを書けばよいんだ?」→ ③「そしたら実際に様々な書評を読んでみない?」→ ④「この書評は読みたくなるけど、この書評はそうでもないな。」「あらすじだけでなく、自分の考えが書いてあると読みたくなるかも。」→ ⑤「そしたら自分の選んだ本でひみつブックを作ってみよう。その本が読みたくなるような書評はどのように書けばよいか?」→ ⑥読みたくなるように工夫してひみつブックを書く!

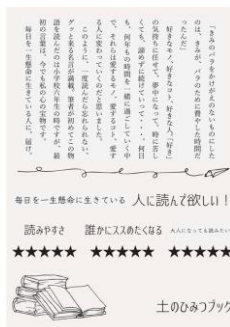
単元計画

授業概要

1	<p>①教師が用意した「桃太郎」の書評を数種類用意し、それらを読んで、書評とは「本を紹介する目的で考えやあらすじを書くもの」であることを知る。</p> <p>②朝日子ども新聞の書評や、店頭で実際に売られているひみつブックを読んでいる</p>
2	<p>①朝日子ども新聞の書評や店頭で売られているひみつブックを実際に読み、「読みたくなった書評」「読みたくなかった書評」と分類をし、比較する。そして、そう思う理由を考え、共有する。</p> <p>②「読みたくなるような書評とは何か?」ということに対する自分の考えを書く。教師が「手に取った人が読みたくなるようなひみつブックを作ってほしい」と提案をする。</p>
3,4,5 (本時)	<p>①「手に取った人が読みたくなるようなひみつブックとは何か?」という問いを基に、ひみつブックを作る。4人グループを作り、読み合ったり、感想を伝えあったりしながら作る。</p> <p>②教師が「最後に読み合いをする時に、読みたいと思った書評に投票をして、一番投票を集めたグループを優勝することにするのはどう?」と提案をする。(センスとタイミング)</p>
6	<p>①ひみつブック読書会を行う。読みたいと思ったひみつブックに投票する。読みたいと思った理由を国語的な見方で書く。</p> <p>②単元の振り返りをし、自分についた力は何かを振り返る。</p>



読みたくなる書き方を「具体的に考える」思考を、
フィッシュボーンチャートを使って促した。



ひみつブックの例